
スマブラパラダイス！

ダイヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラパラダイス！

【Nコード】

N1962Z

【作者名】

ダイヤ

【あらすじ】

スマブラメンバー + α がいろんな生活を繰り広げる！！時には事件が起こり時には恋…そしてケンカ…そんなスマブラワールド！またキャラ崩壊があるのでキャラ崩壊が嫌いな方は気をつけてください

始めに…（前書き）

初めての投稿です!!

始めに…

ダイヤ「何だかいきなり始まったー！」

ソニック「何がいきなりだよ」

マリオ「そつだよ！！小説書くまでの道のりが長すぎんだよ！！」

ソニック「この機会音痴！」

ダイヤ「うっせーなー始まりでグチグチグチグチよおしかたねーだ
るこちらと事情があるんだよ」

ソニック「ゲームやってるだけだろー！！」

マリオ「絶対すぐネタ切れてストップするよ」

ソニック「絶対つまらないって殺到するな」

ダイヤ「始まりでそんなに言つな！！書く気が失せる！」

ソニック マリオ「作者が言わせたんだろーが！！」

ダイヤ「…」

次回キャラ紹介！

始めに…（後書き）

感想待ってます

キャラ紹介（前書き）

キャラ紹介！

キャラ紹介

この小説に出るキャラです

マリオ お馴染みのヒーロー金にがめつくて皆に変な目で見られがち

ルイーシ 永遠の二番手 酷い目に会いやすいが意外と皆に慕われている

ピーチ キノコ王国のお姫様さらわれては助けられるを繰り返す怒ると怖い

クッパ 亀の大王いつもマリオにボコボコにされている 足が遅い

ヨッシー マリオの相棒の恐竜 大食いでカービィと気が合う

ワリオ 下品でメタボな人皆にボコボコにされやすい

ドンキー バナナが好きなゴリラ デイディーとなかがいい

デイディー ドンキーの相棒身が軽い

リンク ハイラルの勇者ゼルダの事が好き

ゼルダ&・シーク 二つの顔を持つリンクの事が好き

ガノンドロフ 皆に気味悪がられてる人 足がむちゃくちゃ遅い

トウーンリンク もう一人のリンク かわいい

サムス バウンディハンター中は女性 怒ると怖い

ピット 天使の男の子 イタズラ好き

ポプ&・ナナ とても仲良しで二人の邪魔をすると大変な事になる

ロボット 心を持っているロボット 頭がいい

カービィ ピンクボール ヨッシーと気が合いなんでも吸い込む

メタナイト 仮面の騎士 仮面をとるとかわいい素顔が…

デデデ 太っている大王 飛ぶことができる

オリマー サラリーマン ピクミンを扱うのが得意

フォックス 雇われ遊撃対ファルコと仲がいい

ファルコ 口が悪い鳥 フォックスと仲がいい

ウルフ ファルコと仲が悪いオオカミ 射撃がうまい

ファルコン 足が速いレーサーとても陽気で明るい

ピカチュウ かわいいポケモン サムスになついている

レッド 三体のポケモンを持っているトレーナー

ルカリオ 波動の使い手 無口だが優しい

プリン 歌が好きなポケモン とても軽い

マルス 王子様 とても優しく強い

アイク 肉好きな騎士 無口で無愛想だが優しい

ネス 勇気のある少年 超能力が使える

リュカ 弱虫な少年 ネスとレッドと仲がいい

ウォッチ ペラペラな人 皆の大先輩

スネーク 傭兵 危険なものを沢山持ち歩いている

ソニック 音速の針鼠 この小説の主要ポジションにいる

シルバー + α の人(?) 正義感がある 未来からきた針鼠 超能力が使える

シャドウ + α の人(?) クールで無口 たまにキャラが壊れる

ダイヤ 作者 いきなり現れる人

キャラ紹介（後書き）

この小説はソニックとシルバーとシャドウの出番が多いです

いきなり

マリオ「…」

スネーク「…」

ソニック「…」

ダイヤ「何ずっと黙ってたよてめーら」

ソニック「ん…ちょっと題名のことを…」

ダイヤ「それで？」

マリオ「なんなの？この何処かのいかれた人がちょっとしたパーティーとかでもいちいちつまらないワンパターンのギャグをやるようなこのスマブラパライスって題名」

ダイヤ「無駄に具体的に何を言いたいかわかんねーよ」

スネーク「簡単にはネームセンスがないと言っているんだ」

ダイヤ「悪かったね」

スネーク「悪い」

マリオ「ってかなんだよいきなりこの変な始まりかた」

ダイヤ「お前らが始めたんだろーが」

ソニック「だつてなあ…」

????? ????「作者」

ダイヤ「おお来たか!」

ソニック「誰？」

シルバー「久しぶりだな!」

シャドウ「…」

ソニック「何故にお前らー!？」

ダイヤ「俺が呼んだ」

マリオ「何胸はって言ってんだよ」

ルイージ「てか女なのに俺って…」

ダイヤ「こっちの方が性に合うんだよ!!」

バキッ↑ダイヤのキックルイージに炸裂

ルイージ「…（気絶）」

シルバー「もう少し女の子らしい口調で書いたらどうなんだ？」

ダイヤ「はあ!?（怒）」

シルバー「す…すいません…」

ダイヤ「ふん」

ソニック「てかいきなり作者の出番多すぎたる」

マリオ「全くだね話が変わし」

ダイヤ「…終了」

皆「ええ!?!」

いきなり(後書き)

最初からグダグダです…

重火器

マリオ「作者あゝ」

ダイヤ「キモイ…」

マリオ「ひでえな！」

ダイヤ「悪かったね　で？何か用？」

マリオ「ああ…実は最近変な噂があるんだよ…」

ダイヤ「へえ、どんな？」

マリオ「作者が最近変な物騒なものを持ってると…」

ダイヤ「ああ…これかい？」

マリオ「（-_-;）」

ダイヤ「なんだよその顔」

マリオ「普通なるわ！」

因みに今作者が持っているのはC-4爆弾

マリオ「スネークから貰ったのか？」

ダイヤ「ううんマスターから貰ったのを少し火薬を増やしたんだ」

マリオ「恐ろしい…」

ダイヤ「今はこれだけしか持っていないが家にはロケットランチャー
やらマグナム ライフル マシンガン ショットガン グレネード
ランチャー 火炎放射…」

マリオ「もういいよ！！ってかどんだけ物騒なもの持ってんの？」

ダイヤ「まだ沢山あるのに…（ってかききにくるのがシルバーかシ
ヤドウだったら嬉しかったのに…）」

マリオ「聞こえてるぞ」

ダイヤ「なんでシルバーかシャドウ又はソニックじゃないの？」

マリオ「皆ききにくるのが怖くてジャンケンで負けた俺がきた」

ダイヤ「ちっ…」

マリオ「なんでそんな物を持つてる」

ダイヤ「マスターの家に火炎放射器持ってたらくれた」

マリオ「確実に脅しただろ」

ダイヤ「ちょっと火吹いただけだよ!!」

マリオ「御愁傷様…」

ダイヤ「もういいか？」

マリオ「ああ…しかしまたこんな話とは…」

ダイヤ「またとは失礼なバイオハザードやってたら思い付いたんだよ」

マリオ「裏話はいいから」

こうして作者は帰っていききました

重火器（後書き）

物騒だ…

寝起き（前書き）

作者のイタズラだ！

寝起き

只今朝の6時です（小説の中で）

ダイヤ「今回はあの人をいきなり起こしたらどんな反応をするか調べます」

調べるキャラは ソニックシャドウ シルバー マリオ ルイージです

フォックス「お馴染みのキャラか（+αを除く）」

ダイヤ「なんで居るんだよ」

フォックス「声が聞こえたから」

ダイヤ「この事誰かにばらしたら殺しちゃうよ？」

フォックス「はい！！誰にも言いません！（汗）」

そんなこんなでまずはソニックの家

ダイヤ「どうやって起こそうか…ロケットランチャーはやりすぎだし…マグナムとかも危ないし…」

銃使つのが危ないと思わないのだろうか

ダイヤ「そうだ♪」

そしてダイヤが持つて来たのは水の入ったバケツ

ダイヤ「よいしょ（^ー^；）」

ひょいっ↑ソニックを持った音

ダイヤ「それ」

トボーーーーン！！

ソニック「うわあああああー！！」

水の入ったバケツに頭から突っ込んだソニック物凄い声をあげている

ダイヤ「グッド（・-・^*）」

ソニック「何すんだよいきなり!？」

ダイヤ「モーニングコールだよー最高の目覚めだな」

ソニック「最悪の目覚めだ!ところでどこ行くんだ?」

ダイヤ「次はシルバーだよー(^ | ^ ;)」

ソニック「ついていていいか?」

ダイヤ「勿論!」

シルバーの家に到着

シルバー「Zzzz・・・」

ダイヤ「シルバーは...」

作者が取り出したもの↓ バット ガラス

バットとガラスをシルバーの近くに持っていく...

ダイヤ「ソニックガラス持ってた!」

ソニック「はいはい」

ダイヤ「せーの」

ガシヤアアアアン！！

バットをフルスイングしてガラスは簡単に割れた

シルバー「うわ！？」

ガラスが割れた音で起きたが割れたガラスの破片がシルバーに！

シルバー「はあ！！」 ↑ 超能力で破片を止めた

ダイヤ「おお！！これこれ！！」

シルバーの超能力を見たくてガラスを割った作者因みにガラスの破片の被害はソニックも巻き添えになりました

ソニック「…」

ダイヤ「次いこー」

シルバー「何してるかは知らないがついていっていいか？」

ダイヤ「勿論！」

シャドウの家

シャドウ「…」

ダイヤ「シャドウも起きてんじゃんつまない（ーー；）」

シャドウは既に起きていた

ダイヤ「じゃあ後ろから…」

作者はそっーとシャドウ後ろに行った

ダイヤ「おっはよー！ー！ー！ー！」↑シャドウに抱きつきながら（笑）

シャドウ「うわっ！？」

ソニック「シャドウがびっくりするとは…」

ダイヤ「次はマリオの家だよーシャドウも行こー」

シャドウ「ああ」

マリオ（ルイージ）の家

マリオ「zzz・・・」

ダイヤ「起きろー！」

作者はマリオに向かって飛び蹴りをした勿論命中

マリオ「…何をする…」

ダイヤ「起こしたんだ感謝しろ 最後はルイージだ！」

マリオ「俺も…」

ダイヤ「ダメダメ」

マリオ「…はい」

ルイージの部屋

ダイヤ「よし！行つてこい針鼠！..」

3人「なにいいい！？」

シャドウ「なんで僕達が...」

ダイヤ「速く行け」

ドンツ！！↑ダイヤがソニック達をおした

3人「うわああ！..」

ぐしゃ！

3人はルイージの腹の上にダイブしたその結果ルイージは気絶した
(また？)

ダイヤ「さー帰ろー（^ー^；）」

3人「はい…」

因みにルイージは5時間後にさましたよー

寝起き（後書き）

感想待ってまーす

+ α とお話し（前書き）

+ α とお話しだよー

+ α とお話し

ダイヤ「ヤバいようネタ切れだYO！（＾－＾）／」

シルバー「書いてんじゃんそして最後が変だよ！？」

ダイヤ「ネタ切れをネタにしたのさ！！」

シルバー「意味不ー！」

ダイヤ「叫ばなくてもいいんだよシルバー君（＾＾；）」

シルバー「ごめんなさいごめんなさい」

ダイヤ「まあシルバーなら許すよー♪因みにシャドウもね」

シルバー「ソニックは…？」

ダイヤ「時による（ー；）」

シルバー「何故？ソニックファンだろ！？」

ダイヤ「そうだけどさー（ー；）シルバーとシャドウに比べると

な〜」

シルバー「でもお前シャドウが一番好きだったじゃん」

ダイヤ「お前は性格が最高なんだ…って俺のオタクぽい話になってるよー!?!」

シルバー「確かに読んでは読者様は「何話してんの自分はお前のオタクの話聞きに来たんじゃないよ」って思われてるな」

ダイヤ「酷すぎるよ!」

読んでくれている皆様誠に申し訳ありません私のオタク話を聴いてくれて

シャドウ「話してしまったものは仕方がない」

ダイヤ「シャドウじゃん!」

シャドウ「…」

ダイヤ「何黙ってんのさ」

シャドウ「いや僕は元から…」

ダイヤ「キャラ変えちゃうぞー(ー・・・)」

シャドウ「すいません!!(汗)」

シルバー「ビミョーなキャラ崩壊だな…ってか作者の力って怖え…」

ダイヤ「(^ ^) (^ - ^) / (ー・・) (ノ - ” -) ノ
」

シルバー「作者壊れたー!?! なんなのいきなり?」

ダイヤ「即興ネタもきれたYO! () 」

シルバー「その最後の英語やめろ!! 変だし!」

シャドウ「やれやれこの作者は…」

バキツ! ↑ダイヤのキック炸裂

シャドウ「…」(痛みに耐えてる)

シルバー「おいおいおい！シャドウはやらないんじゃないのか？」

ダイヤ「ソニックと間違えたんだよ」

シルバー「うそだ！」

こうしてトークは終わった

シャドウ「どうして僕が…」

+ α とお話し（後書き）

感想待ってます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1962z/>

スマブラパラダイス！

2011年12月10日19時54分発行